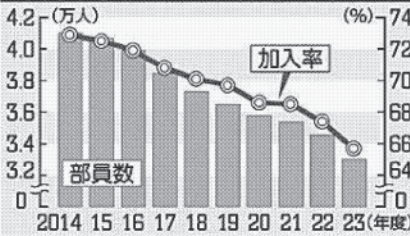


中学生向け 年 組

(199)

2024年2月19日付・下野新聞1面

県内中学校の運動部員数と加入率



スポーツ障害は改善

調査は昨年6月、県内の国公私立中学校161校、高校の全日制73校、定時制・通信制10校を対象に実施した。

中学生の運動部員数は1522人減の3万3023人。加入率は男子が1・5%減の73・6%、女子が1・9%減の57・4%だった。

競技別部員数は男子で前

年度2位だったソフトテニス、卓球、3位サッカーと続いた。女子は前年度と変わらなかった。1位ソフトテニス、2位バレーボール、3位卓球だった。

地域のスポーツクラブなどで活動する生徒の割合は年々増加しており、0・5%増の6・8%となった。

文化部の加入率は0・6%増の21%。

全日制高校の運動部加入率は1・1%減の43・9%。男子は54・2%、女子

が32・8%だった。

5年ぶりに実施したスポーツ障害に関する調査では、肩や肘、膝などに痛みがない部員の割合は中学校98・5%、全日制高校97・9%となり、いずれも前回(18年度)と比べ1・2%増加した。痛みがあり運動ができないと答えた生徒は中学、高校ともに0・5%以下だった。

県教委は18年に「県運動部活動の在り方に関する方針」を策定し、週2日以上、休養日の設定や、活動時間は長くても平日2時間程度に抑えることなどを示している。

県教委は「一定の効果があつた。今後も市町と連携しながら運動部の適切な運用に取り組む」としている。

23年度県内中学生

県内中学生の2023年度の運動部加入率は前年度比1・7%減の65・7%で過去最低を更新したことが18日までに、県教委のまとめで分かった。減少幅は直近10年間で最大。部活未加入や、地域のスポーツクラブで活動する生徒が増えるなど、運動部離れは年々進んでいる。一方、運動のし過ぎで引き起こされるスポーツ障害は減少しており、県教委は「適度に休養を取りながら部活をする」という意識が浸透した結果」と分析している。

(飯田ちはる)

減少幅、直近10年で最大

運動部加入率最低65%

こ10年で最も大きく下がった。

ウ、運動部加入率低下の最大の要因は文化部の人気にあり、その加入率は21%にも達する。

エ、中学校における種目別の加入数は、男女ともにソフトテニス部が一番であり、卓球も人気上位の種目である。

オ、昨年度から今年度にかけての運動部加入率は、全日制高校に通う女子生徒が最も下がっており、32.8%しかない。

カ、18年度の調査では、肩や肘、膝などに痛みがない部員の割合は、中学校で99.7%、全日制高校で99.1%であった。

キ、県教委は「県運動部活動の在り方に関する方針」を打ち出し、「一定の効果があつた」としていることから、運動部加入率の低下を好意的に見ている。

設 問

【1】栃木県教育委員会は「適度に休養をとりながら部活をする」という意識が浸透した結果」とコメントしていますが、その結果何が起こったのか、一言で説明してみましょう。

【2】中学生において、男女あわせた競技部員数が一番多いのは何の種目でしょうか。種目名を答えましょう。

【3】この記事から分かる情報として正しいものには○を、間違っているものには×を書きましょう。

ア、運動部加入率は23年度において、過去最低だった22年度を更新して、歴代最低の値を更新した。

イ、運動部加入率は昨年度から今年度にかけて、こ